

2016年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2015年10月30日

NECキャピタルソリューション株式会社

\Orchestrating a brighter world

未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。
それは「安全」「安心」「効率」「公平」という価値が実現された社会です。

NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ
類のないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、
卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、
世界の国々や地域の人々と協奏しながら、
明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。

目次

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

- 1) 連結決算ハイライト
- 2) 事業環境
- 3) 業績概要（連結）
- 4) 事業別収益（連結）
- 5) 事業別契約実行高の状況（単独ベース）
- 6) 賃貸・割賦事業の営業状況（単独ベース）
- 7) ファイナンス事業の営業状況（単独ベース）
- 8) リサ事業の営業状況（営業利益）
- 9) 営業資産残高の状況（連結）
- 10) 資金調達の状況（連結）
- 11) 与信関連費用（連結）

2. 2016年3月期計画

- 1) 連結業績予想

3. 足元の事業TOPICS

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

1) 連結決算ハイライト

【事業環境】

- ・リース取扱高は、前年4月に実施された消費増税の影響がなくなり前年同期比増加
- ・資金調達環境は引き続き良好な状況を維持
- ・倒産状況については、負債総額・件数共に前年同期比減少

【営業トップライン】

- ・賃貸・割賦事業における契約実行高は前年同期比増加
- ・成約高についても前年同期比増加
- ・一方、ファイナンス事業については前年同期比減少

<賃貸・割賦事業>

契約実行高： 11.0%増 成約高： 6.9%増

<ファイナンス事業>

契約実行高： 4.0%減 成約高： 3.2%減

【経営成績】

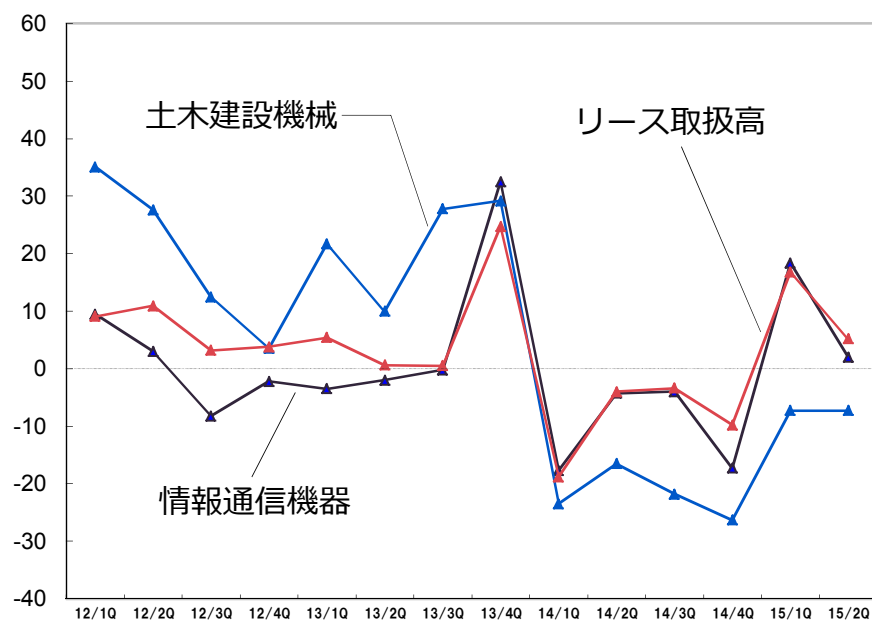
- ・ヘルスケア関連の不動産売却等により増収。一方、与信コストの戻入の減少などにより、経常利益及び四半期純利益については減益となる

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

2) 事業環境

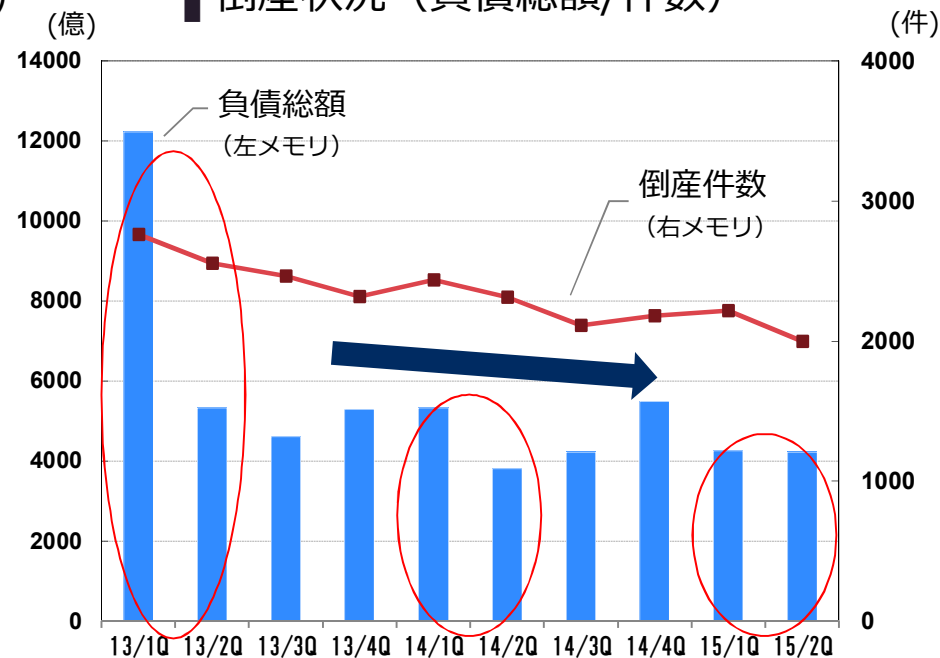
- リース取扱高：当社の主力である情報通信機器については前年同期比9.6%の増加
また、業界全体のリース取扱高についても前年同期比10.6%の増加
- 倒産状況：当第2四半期における負債総額は、4期連続の前年同期比減少
倒産件数についてはリーマンショック後最少を記録

リース取扱高の足元の動向（前年同期比推移）



（社団法人リース事業協会：リース統計）

倒産状況（負債総額/件数）



（帝国データバンクHP：倒産集計より）

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

3) 業績概要（連結）

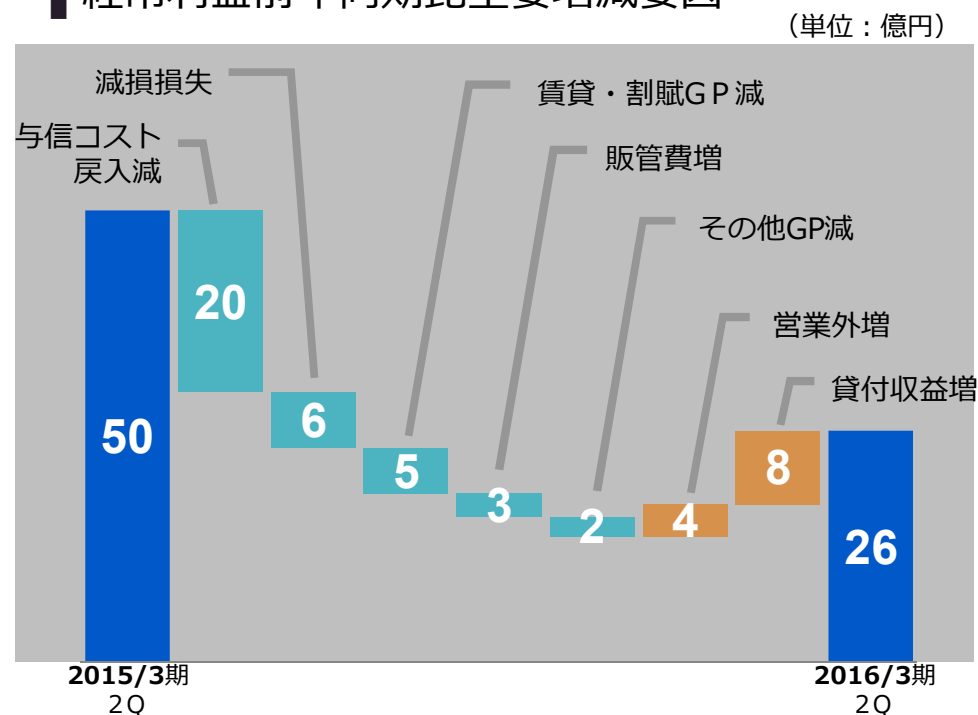
- ・ 売上高 : ヘルスケア関連の販売用不動産の売却があったことにより前年同期比3.0%の増加
- ・ 経常利益 : 与信コストの戻入の減少や、賃貸資産について減損損失を計上したことにより、前年同期比48.8%の減少
- ・ 自己資本比率 : 9.9% (13/9末) → 10.3% (14/9末) → 9.4% (15/9末)

業績数値

(単位：億円)

	2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年同期比
売上高	972	1,002	3.0%
営業利益	52	25	▲53.0%
経常利益	50	26	▲48.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	30	18	▲39.7%
1株当たり四半期純利益	137円24銭	82円72銭	—
営業資産残高	6,418	7,274	13.3%
純資産	858	999	16.5%
自己資本	739	752	1.7%
自己資本比率 (%)	10.3	9.4	▲1.0
1株当たり配当金 (円)	22	22	—

経常利益前年同期比主要増減要因



1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

4) 事業別収益（連結）

事業別収益

（単位：億円）

		2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年同期比
貸貸・ 割賦事業	売上高	846	823	▲2.7%
	売上総利益	65	55	▲15.5%
	営業利益	43	21	▲51.5%
ファイナンス 事業	売上高	17	25	51.2%
	売上総利益	12	21	72.0%
	営業利益	12	11	▲4.6%
リサ 事業	売上高	41	57	37.1%
	売上総利益	22	16	▲30.0%
	営業利益	5	▲0	-
その他の 事業	売上高	69	97	41.1%
	売上総利益	9	12	36.9%
	営業利益	▲1	1	-
計	売上高	972	1,002	3.0%
	売上総利益	108	103	▲4.6%
	営業利益	52	25	▲53.0%

※短信セグメント情報のうち、「調整額」を除いて表示

<<貸貸・割賦事業>>

- ・売上高は小口事業撤退の影響により前年同期比2.7%減。
営業利益については、与信コストの戻入の減少により前年同期比51.5%減

<<ファイナンス事業>>

- ・売上高は有価証券投資から得られる収益の増加により、前年同期比51.2%増。
営業利益については、与信コストの戻入の減少により前年同期比4.6%減

<<リサ事業>>

- ・営業利益については、リサ単独では黒字を確保したものの、のれん償却を含めた連結ベースでは営業損失となる

<<その他の事業>>

- ・売上高は、ヘルスケア関連の販売用不動産の売却により、前年同期比41.1%増。
営業利益については粗利の増加により、前年同期比1億円改善し、黒字となる

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

5) 事業別契約実行高の状況（単独ベース）

事業別契約実行高

（単位：億円）

	2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年同期比
賃貸・割賦事業	599	665	11.0%
賃貸事業	579	624	7.7%
割賦販売	20	41	101.6%
ファイナンス事業	1,416	1,359	▲4.0%
営業貸付金	930	876	▲5.8%
一括ファクタリング	486	483	▲0.6%
その他の事業	14	20	48.7%
計	2,029	2,044	0.7%

事業別成約高

（単位：億円）

	2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年同期比
賃貸・割賦事業	905	967	6.9%
賃貸事業	878	933	6.2%
割賦販売	27	35	27.6%
ファイナンス事業	1,414	1,369	▲3.2%
営業貸付金	928	886	▲4.6%
一括ファクタリング	486	483	▲0.6%
その他の事業	15	23	50.4%
計	2,335	2,359	1.0%

《契約実行高》

- ・ 賃貸・割賦事業においては、各種施策が奏功し、前年同期比11.0%増となる
- ・ ファイナンス事業については、前年同期に債権流動化の大型案件があったものの前年同期比ほぼ横ばいまで回復

《成約高》

- ・ 賃貸・割賦事業、ファイナンス事業共に、契約実行高と同様の展開

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

6) 賃貸・割賦事業の営業状況（単独ベース）

業種別契約実行高

（単位：億円）

	2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年同期比
官公庁	259	303	17.1%
民需	341	362	6.3%
サービス業	63	91	43.6%
流通業	75	95	27.3%
製造業	68	134	96.6%
その他	135	42	▲68.7%
計	599	665	11.0%

業種別成約高

（単位：億円）

	2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年同期比
官公庁	613	594	▲3.1%
民需	292	373	27.7%
サービス業	64	89	37.6%
流通業	67	99	46.8%
製造業	78	106	35.8%
その他	83	80	▲3.4%
計	905	967	6.9%

（参考）機種別賃貸事業契約実行高

（単位：億円）

	2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年同期比
情報通信機器	348	473	35.8%
電子計算機及び関連装置	193	211	9.7%
ソフトウェア	144	252	74.7%
通信機器及び関連装置	11	10	▲15.0%
事務用機器	21	20	▲7.2%
その他機器	230	172	▲25.1%
計	599	665	11.0%

- ・業種別の契約実行高は、官公庁・民需共に前年同期比増加
全体では、前年同期比11.0%増
- ・成約高については、民需が前年同期比大幅増加
全体では、前年同期比6.9%増
- ・官公庁ライン・民需ラインそれぞれにおける、各種施策により、当2Qは順調に推移

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

7) ファイナンス事業の営業状況（単独ベース）

契約形態別契約実行高

（単位：億円）

		2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年同期比
立替・APF・割賦バック		36	49	37.3%
個別ファクタリング		423	367	▲13.2%
診療報酬債権流動化		1	—	—
企業融資		423	376	▲11.0%
その他		47	83	77.0%
計		930	876	▲5.8%

業種別契約実行高

（単位：億円）

		2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年同期比
官公庁		5	4	▲23.6%
民需		925	872	▲5.7%
サービス業		50	74	48.5%
流通業		43	87	101.6%
製造業		457	360	▲21.4%
金融業・保険業		133	131	▲1.0%
不動産業		95	52	▲45.9%
その他		146	168	14.6%
計		930	876	▲5.8%

- ・ 契約形態別の契約実行高については、前年同期に大口のあった個別ファクタリングで前年割れ、また企業融資も前年割れとなり、ファイナンス事業全体では前年同期比5.8%減少
- ・ 業種別では、サービス業及び流通業他で前年同期比増加となるものの、それ以外の業種で前年割れとなり、民需全体では5.7%減少
- ・ グローバル展開の中で、海外案件についても実績拡大に成果

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

8) リサ事業の営業状況（営業利益）

（単位：億円）

		2015/3期 2Q	2016/3期 2Q	前年 同期比
アセットビジネス	売上高	29	37	26.8%
	売上総利益	19	10	▲46.4%
	営業利益	11	4	▲63.7%
不動産	売上高	9	17	89.9%
	売上総利益	1	3	197.4%
	営業利益	▲1	1	-
アドバイザリー	売上高	4	3	▲12.6%
	売上総利益	3	3	▲11.8%
	営業利益	1	▲0	-
のれん他	売上高	▲0	0	-
	売上総利益	▲1	▲0	-
	営業利益	▲6	▲5	-
連結ベース 計	売上高	41	57	37.1%
	売上総利益	22	16	▲30.0%
	営業利益	5	▲0	-

**事業単体ベースでは
営業利益は黒字となるものの
のれん償却等を加味した
連結ベースでは営業損失となる**

<<アセットビジネス>>

- ・債権投資事業における回収益の減少により、減益となっている

<<不動産>>

- ・販売用不動産の売却により増収

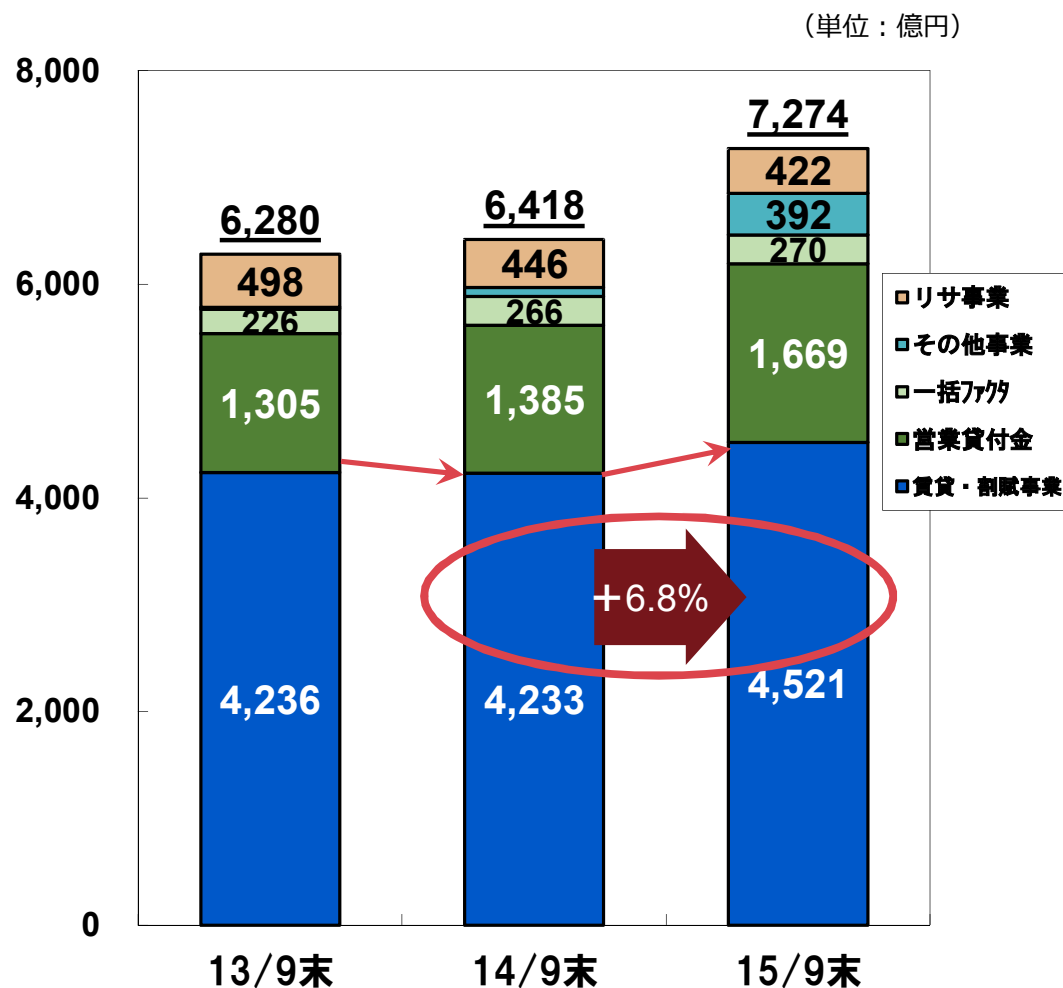
<<アドバイザリー>>

- ・ほぼ前年並みの収益を確保

※期ズレ案件については金額的なインパクトが大きいことから各セグメントに計上

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

9) 営業資産残高の状況（連結）



<<営業資産残高>>

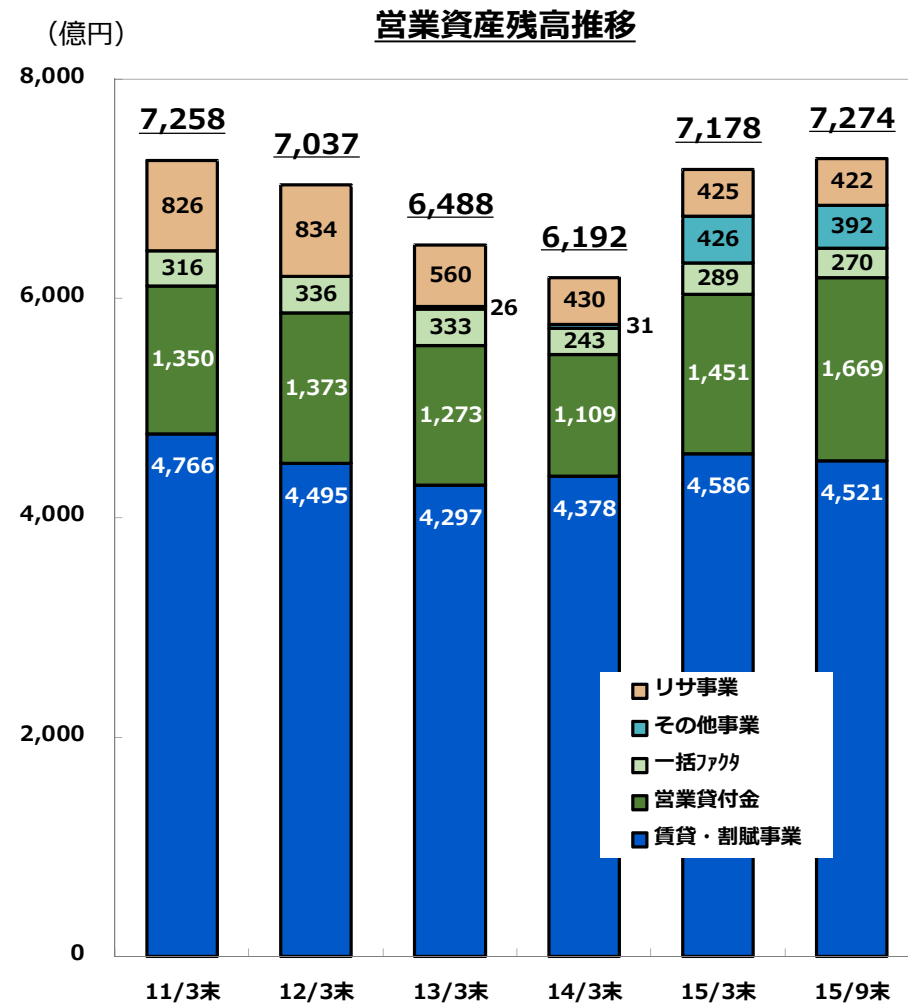
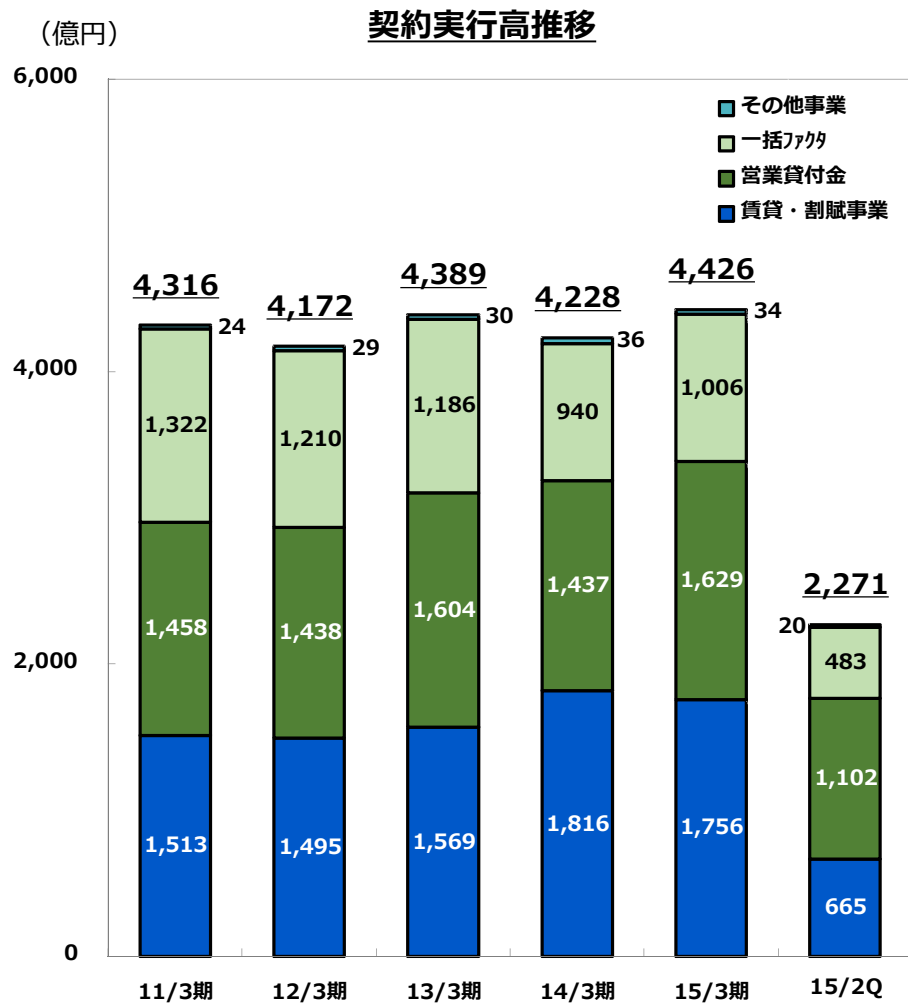
- ・ 貸貸・割賦事業の残高は、
前年同期末比288億円（6.8%）の増加

(億円)	14/9末	15/9末	前年増減
官公庁	2,474	2,623	148
民需	1,758	1,897	139
	4,233	4,521	288

- ・ 営業貸付金の残高は、
前年同期末比283億円（20.5%）の増加
⇒グローバル事業展開に伴って外貨建融資等の残高が増加
また、製造業向けのファクタリングが増えたことにより、個別ファクが226億円の増加
- ・ その他事業の残高は、
前年同期末比304億円の増加
⇒ヘルスケア関連の販売用不動産が307億円増加
(14/9末 71億円→15/9末 378億円)

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

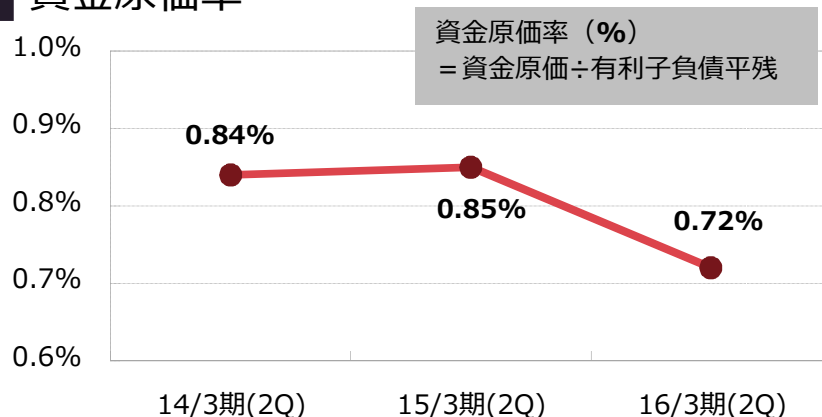
9-1) 契約実行高推移・営業資産残高推移



1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

10) 資金調達の状況（連結）

資金原価率

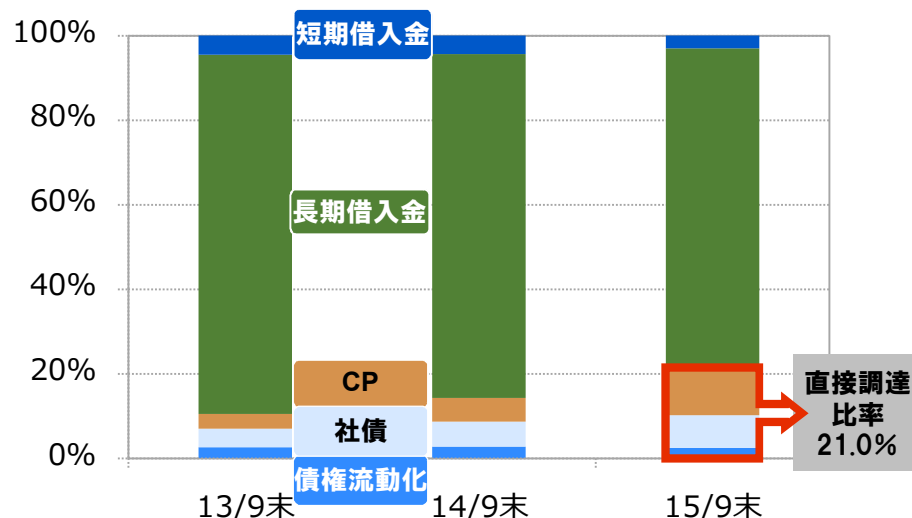


有利子負債残高

(単位：億円)

	2015/3期		2016/3期		増減
	2Q末	構成比	2Q末	構成比	
短期借入金	251	4.3%	198	3.0%	▲53
長期借入金	4,793	81.4%	4,977	76.0%	184
CP	330	5.6%	710	10.8%	380
社債	350	5.9%	500	7.6%	150
債権流動化	167	2.8%	166	2.5%	▲1
計	5,892	100.0%	6,551	100.0%	660

有利子負債構成比

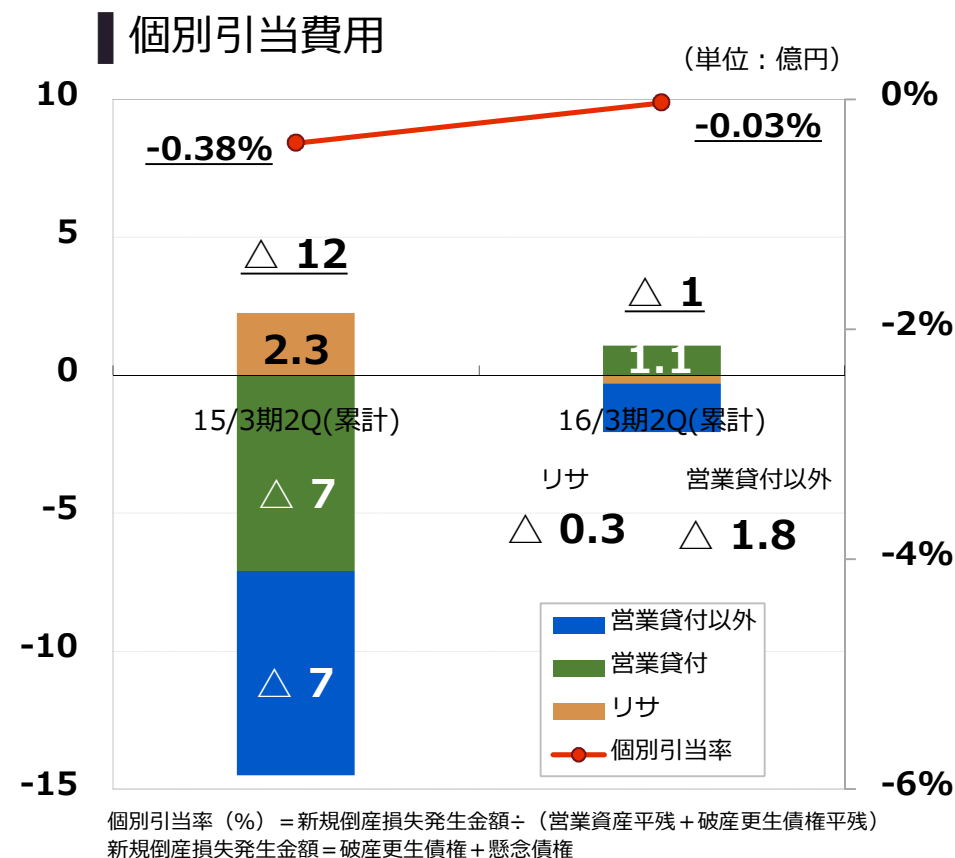
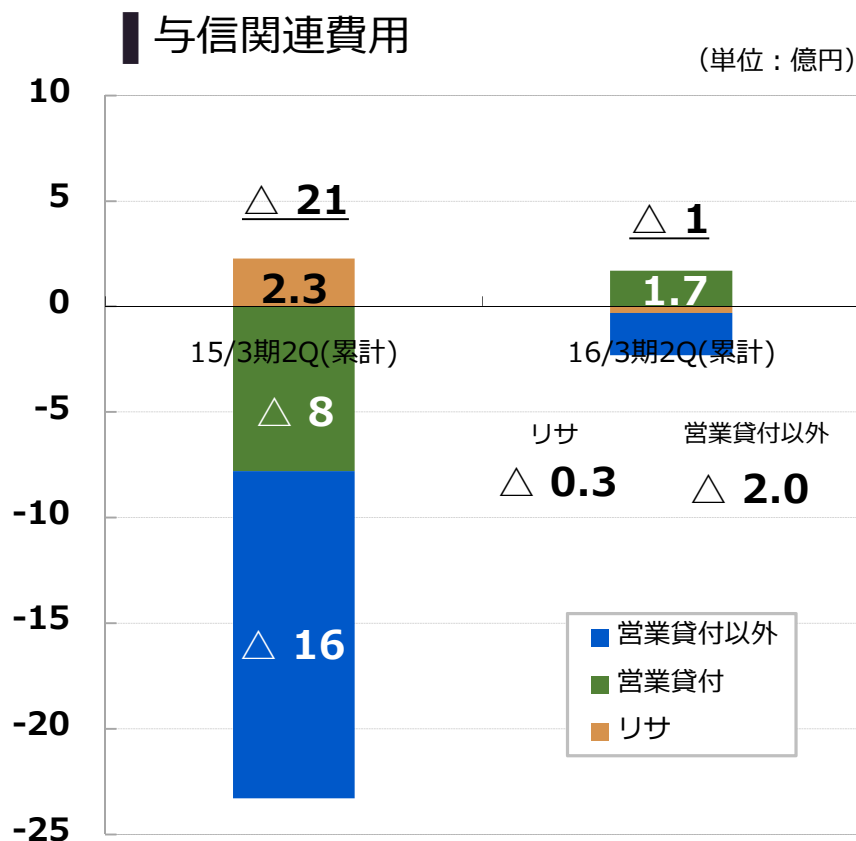


- 連結後の資金原価率は0.72%
⇒有利子負債平残は増加したものの、長期借入のCPシフト、調達スプレッドの削減及び市場金利の低下により減少
- 直接調達比率は上昇
(2014/9末 14.4% → 2015/9末 21.0%)
⇒C P 残高増加により上昇

1. 2016年3月期 第2四半期実績報告

11) 与信関連費用（連結）

- ・与信関連費用は、前年同期比20億円増加（内、一般9億円増加）
- ・個別引当費用は、貸倒引当金の戻入の減少等により、11億円増加



2. 2016年3月期計画

2. 2016年3月期計画

1) 連結業績予想

■ 連結業績予想

(単位：億円)

	実績	予想	
	2016/3期 第2四半期	2016/3期 第2四半期（累計）	2016/3期 通期
売上高	1,002	900	1,900
営業利益	25	25	55
経常利益	26	25	55
親会社株主に帰属する純利益	18	15	35
1株当たり純利益（円）	82円72銭	69円66銭	162円54銭

■ 1株当たり配当金

	第2四半期末	期末	年間
2016/3期予想	22円00銭	22円00銭	44円00銭
2015/3期実績	22円00銭	22円00銭	44円00銭

3. 足元の事業TOPICS

3. 足元の事業TOPICS

EV・PHV充電スタンド設置での充電器リース

- NECと連動した電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）用普通充電器大規模設置案件での充電器リースを実施
- 複数の大型商業施設への設置が決定
- 2015年10月現在で累積設置契約数 2,200基超
- 機器の選定、設置から資金調達、運用までのトータルサービスをNECグループが提供
- 環境配慮型の次世代自動車の普及にはEV・PHV用充電スタンド等のインフラ整備が不可欠であり、その設置事業はCSV経営の好事例

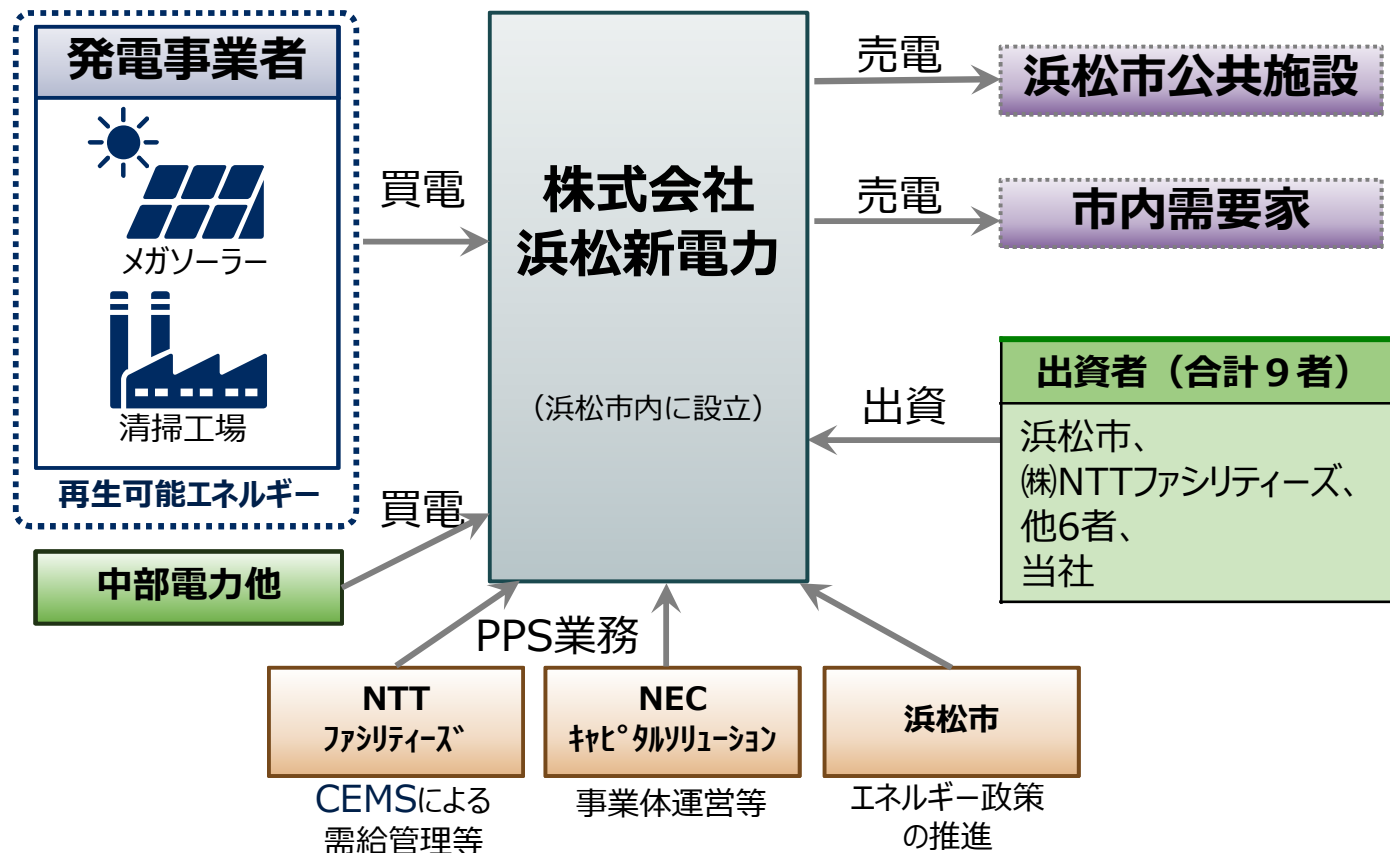


※株式会社ジョイフル本田様「千代田店」に設置した普通充電器

3. 足元の事業TOPICS

「株式会社 浜松新電力」への出資参画（10/15）

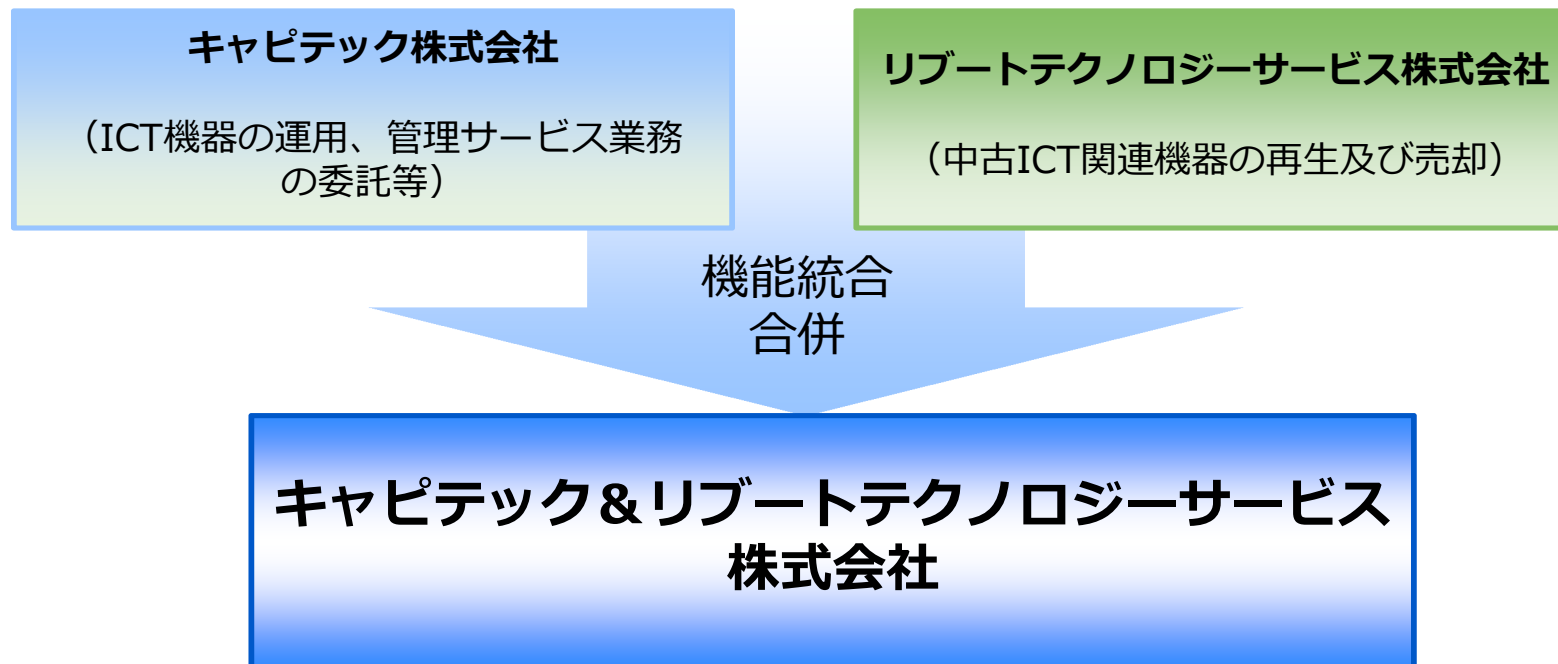
- 浜松市内における再生可能エネルギーの地産地消を推進する新電力会社への出資参画
- 官民連携の地域PPS事業として政令指定都市初となる取り組み
- 太陽光発電など市内の再生可能エネルギー電源を購入し、クリーンで安価な電力を市民や企業、公共施設等に供給



3. 足元の事業TOPICS

I C T 関連サービス事業強化のための連結子会社間の吸収合併（10/1）

- お客様のICT資産のライフサイクルマネジメント全てに渡るサービスをワンストップで行える体制の構築のために子会社2社を合併し、「キャピテック&リブートテクノロジーサービス株式会社」に改称
- ICT機器の運用、管理サービス業務の委託等を行うキャピテック株式会社と、中古ICT関連機器の再生及び売却を行うリブートテクノロジーサービス株式会社の機能を統合
- 当社のリースを始めとする金融機能と併せ、これまで以上のサービス提供を実現



3. 足元の事業TOPICS

■ 第三者機関によるCSV経営に対する高い評価

■ SMBCサステナビリティ評価融資（10/6）

- **最高評価：AAAを取得** / AAA～Eの7段階評価（前年評価：AA）
- 「SMBCサステナビリティ評価融資」は、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所が作成した独自の評価基準に基づき企業のE S G側面の情報開示とサステナビリティへの取り組みなどを評価し、評価結果に応じた融資条件の設定を行う融資。
- 当社の「企業理念・サステナビリティへのコミットメント」「社会的課題への対応と企業価値向上」「事業活動における環境負荷削減の取り組み」が非常に高く評価されました。

■ DBJ環境格付け（3/20）

- **評価結果 209.5点/250点**（前年208.0点/250点）
- 2004年より11年連続となる「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高ランクの格付け及び6回目となる特別表彰を取得。
- 「DBJ環境格付融資」は、DBJが開発したスクリーニングシステム（格付システム）により企業の環境経営度を評価、優れた企業を選定し金利条件を決める融資。
- 当社の「環境中長期計画の策定」「調達とリースを融合させた独自の取組」「循環型社会構築に貢献するサービス提供」「メーカー系リース会社ならではのサプライヤーとの協業」が高く評価されました。

本資料に記載されている株主・投資家向け情報は、投資勧誘・保証を目的として作成されたものではありません。実際に投資を行う際は、ご利用者ご自身のご判断において行われるようお願い致します。

本資料に記載されている当社の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。

また、本資料に記載されている経営目標は予想ではなく、将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものではありません。むしろ、経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、当社の事業領域を取り巻く経済情勢及び規制や法令の変更、潜在的な法的責任、当社のサービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力などがありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷などにより、実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

当社による将来予測に関する記述は、その日現在のものであることをご承知おきください。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、リスクや不確定要因があるため、将来予測に関して記述されていることが実際には起こらない場合もありえます。これらの記述に全面的に依拠することは控えるようお願いします。



NECキャピタルソリューショングループビジョン
お客様と共に、社会価値向上を目指して、
グローバルに挑戦するサービス・カンパニー

 **Orchestrating** a brighter world

NEC